

かせかけ No.21

Okinawa Prefectural College of Nursing
 沖縄県立看護大学広報誌2012(平成24年)11.30

CONTENTS

●シリーズのぞいてみよう看護大学 2	●恒例の大学イベント 6
1)ヘルスアセスメント講義演習風景	・第14回看護大祭 ・オープンキャンパス2012 ・ハワイ研修
2)ヘルスアセスメントの講義・演習で学んだこと	●大学院コーナー 7
・平成24年度公立大学学長会議の特別シンポジウム	・「島しょにおける包括的専門看護師の養成」
ワークショップに参加して 3	●沖縄科学技術大学院大学(OIST)訪問 7
●宮古島での実習を支える地域住民の活動紹介 4	●附属図書館からのご案内 8
・学生の学習支援に住民ボランティアが参加	●おしらせ 8
●卒業生の今～1期生にインタビュー～ 5	●平成24年度後半の主な大学行事 8
	●受験生向け平成25年度のイベント 8



シリーズ のぞいてみよう 看護大学

1)ヘルスアセスメント講義・演習風景

講師：謝花 小百合

ヘルスアセスメントとは、看護の対象者の身体的側面(フィジカル・アセスメント)、心理・社会的側面をアセスメントし、適切な看護援助を実施するために重要な看護技術である。

本学は、今年度(平成24年)より2年次を対象にヘルスアセスメントの講義・演習を取り入れ、それらを通してコミュニケーション、インタビュー技術、そして個人を対象としたヘルスアセスメントの実践に力をいれている。授業は1週間に1回～2回で90分の講義、180分の学内演習から構成されている。教育体制は、基礎看護領域、成人保健看護領域、老年保健看護領域、小児保健看護領域および母性保健看護領域の教員が協働で講義を行い、演習では9名の教員が10～12名の学生を担当している。

ヘルスアセスメントの学習方法として、講義で学んだ後に、学生たちが患者役、看護師役、観察者役の役割を決め、簡単なシナリオを基に問診およびフィジカルアセスメントである視診(観て)、触診(触って)、打診(打って)、聴診(体から発生する音を聴いて)などのロールプレイを実施する。その後、デブリーフィング(振り返り)を行い、各学生が、ロールプレイを通して、その行為を振り返り、良かった点や改善する点を討議し、再度ロールプレイを行うというプロセスをくり返し練習しヘルスアセスメントを習得している。デブリーフィング(振り返り)の際、教員は一方的に教えるのではなく、学生の発問を促し、共に考え、どうすればよかったかなどファシリテイトする。あくまでも、学生の自主性、自律性をひきだせるような教育あるいは支援を心がけている。

実際に、風邪で外来を受診した患者という設定のシナリオでのロールプレイでは、看護師役の学生は何をどのように患者役の学生に聞いていいのかが戸惑い、沈黙が続くこともある。ロールプレイ後のデブリーフィングでは、看護師役の学生が、「頭ではわかっているつもりでも、動くことができなかった」

など、患者役の学生からは、「沈黙が長かったので不安になった」などそれぞれの立場で答えていた。また、観察者役からは、「話を聞くときは目線を合わせた方がいい」、「何の目的で口の中を観察するのかを先に患者さんに伝えてから実施する」などの意見があり学生が主体的に改善点を話し合い、再度ロールプレイをくり返しなが、ヘルスアセスメントの習得に励んでいる。



風邪の主訴の患者の扁桃腺の腫れの有無を観察(視診)



風邪の主訴の患者のリンパ節の腫れの有無を観察(触診)



打鍵器を使用しての反射の確認(打診)



シミュレーションのマネキンでの異常音(腹鳴)の確認(聴診)

2)ヘルスアセスメントの講義・演習で学んだこと

この授業では、生徒同士で患者さん役と看護師役のペアになって演習し、様々な疾患をもつ患者さん役に対し、看護師役は問診、視診、打診、触診、聴診をし、患者さん役の健康状態を全人的にアセスメントする練習を繰り返しました。その後、グループでディスカッションし、気をつけた点、改善点、疑問点、良かった点などを意見交換します。ディスカッションでは、患者さんとどのようにコミュニケーションを取れば、患者さんに緊張感や不快な思いを与えず、自分たちもうまく情報を聞き出すことができるかなどを主に話し、そのためには、まずあいさつや目線を意識すること、自己紹介をすることなど看護技術の前に、基本的なコミュニケーション能力、態度が大事であるということ学びました。また、単発に質問を重ねず、患者さんの気持ちが聞けるようにオープンクエスチョンを心がけることや、実際に患者役を体験することで、どういうときにプライバシーや羞恥心

への配慮、声かけが必要かを考えることもできました。授業後の後期の実習の中では、患者さんと接する際にコミュニケーション技術や、アセスメントをする視点についてこの授業での学びが活かされたと思います。さらに実際に看護師がどのように問診しているかを見て、自分たちが授業のときにやっていたことと比べて学ぶことができ、医者が何を調べるために打診や触診をしているのかを考察することもできました。このようにヘルスアセスメントでは、対象者の健康状態を全的にアセスメントできる基本的技術と看護者として望ましい基本的態度を学ぶことができ、実際の臨地実習の場でリンクする学びが多かったです。



2年次 玉城 瑠

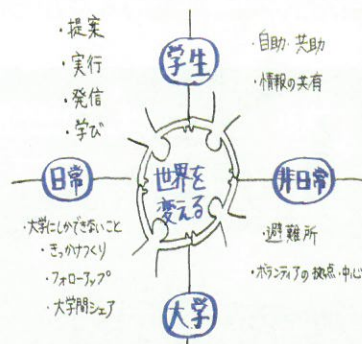


平成24年度公立大学学長会議の特別シンポジウム・ワークショップに参加して

3年次 石川綾乃
樋口智美

私たちは、11月8日に静岡県立大学で開催された公立大学学長会議に参加致しました。全国24大学から47人の学生が集まり、「被災地支援」と「地域防災」をキーワードに、学長80人と意見交換する特別な一日でした。当日、参加者が4グループに分かれて、大学と学生の役割を明確にする議論を行ない、グループ別発表を全員で共有する展開でした。被災地支援に実際に行ってきた学生の話は説得力があり、支援力を活かす「受援力」、大学と学生の連携による支援の継続性、学生自ら世界を変える、「大学を生かす、大学で生み出す、大学と生きる」など、各グループから強いメッセージが披露されました。今後のプランとして、3月11日の防災の日に、公立大学の学生が交流を持てる場を作り出すことを全員で決め、現在、大学生による「被災地支援・地域防災全国大会」の開催に向けて、第一回は岩手県で動き出しています。

私たち二人は、看護学生への期待をとて強く感じました。被災された方々が抱えたストレスに対して、学生なりに関わりを持つことができるかも知れない、そのことも含めて、被災地で起こっていた現実を、家族・友人、そして大学の仲間きちんと伝えたいと思います。



「宮古島での実習を支える地域住民の活動紹介」 学習支援に住民ボランティアが参加「みゃーくの会」の取り組み

講師：大川 嶺子

「みゃーくの会」とは…

宮古島での看護大学の学習支援のために結成された住民ボランティア団体です。



「みゃーくの会」の活動は…

宮古空港での出迎えに始まります。離島(宮古島)実習に訪れる看護学生を島の玄関で歓迎することで、緊張をほぐし、楽しく学べる環境づくりへの心遣いです。

「みゃーくの会」の学習支援活動は、大きく3つあります。

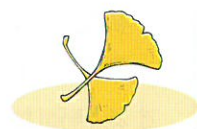
①実習生を家に泊めて宮古島の生活を体験してもらう「民泊ボランティア」、②宿泊先と実習先間を送迎する「移送ボランティア」、③宮古島の歴史や文化、方言などを講義する「講師ボランティア」です。その他、住民ボランティアと実習生との交流会、実習報告会への参加による学びあいがあります。そして、看護学生との別れを惜しみながら宮古空港での見送りで終了します。

「みゃーくの会」の活動の実績・評価は…

平成23年度に宮古島で実習したすべての看護学生は、「みゃーくの会」から何らかの学習支援を受けていました。

<看護学生の声>

- ・「初めての離島実習なので緊張したが、空港でボランティアが温かく出迎えてくれ、交流会で実習指導者とも事前にお会いできたので、気持ちにゆとりが持てた。」
- ・「ボランティアの皆さんに支えてもらっているという安心感があつたおかげで、実習を頑張れた。」
- ・「民泊では、“食事はおいしかったか”、“疲れていないか”と気にかけてくれたので、すぐに馴染めて、自分の家のようにくつろげた。」



<社会の評価>

- ・沖縄県社会教育研究大会で「みゃーくの会」の活動が評価され、社会教育功労表彰を受けた。
- ・九州社会教育研究大会で発表し、住民が大学と連携して看護学生の学習支援を行っていることが高く評価された。

※看護大学は、地域の人々からの学習支援も受けながら、質の高い看護職者の育成をしています。



宮古空港での出迎え



宮古空港での見送り



「みゃーくの会」の活動発表

「卒業して10年、今どうしていますか？」
卒業生の今 **1期生にインタビュー**



♥看護師♥
日野さんからの
レター

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 呼吸器内科病棟 日野 智美

私は、大学卒業後、福岡県にある国家公務員共済組合連合会 浜の町病院に就職、外科病棟、HCUと経験し、現在、呼吸器内科病棟に勤務しています。1年目は覚えることが多く、毎日が必死で過ぎていきました。一

人では悩むことも多く、同期の仲間と話したり、食事に行ったりすることで悩みを共有することができました。2年目は自分の判断が重要になるときに責任を感じ、より厳しさを感じました。

今では、新人教育にも関わることができました。新人のときは注意されることも多く、「なぜ」を思うこともありました。しかし、新人教育を行うことで、新人が一人で看護を行うことで困らないように、患者さんから信頼されるように指導していることがわかりました。今後、実習指導者講習会に参加し、指導方法なども学んでいく予定です。

気付けば10年目になりましたが、患者さんからの「ありがとう」という言葉と同期と関わりが続いていることで今まで続けてこれたのではないかと思います。



病院の外観

♥助産師♥
菊谷さんからの
レター

那覇市役所健康推進課 菊谷 愛子

卒業後は、産婦人科病棟で、助産師として就職しました。約6年間、外来で、助産外来での妊婦健診や産後健診、母親学級、地域の新生児訪問、産婦人科病棟での授乳指導や実習生の指導など様々な仕事を経験し、多くの妊産婦さんやご家族と出会いました。もっと乳幼児期全般の育児支援ができるようになりたいと思い、現在、那覇市役所健康推進課の非常勤保健師として働いています。仕事の幅を広げた分、さらに多くの方々と出会い、多種多様な生活・家族・考え方があって、対象者にあった支援を模索する毎日です。社会活動（「私らしいお産を考える会」というNPOの活動）として仲間と出産情報や性教育の大切さを伝える活動をしています。小学校の「いのちの授業」を担当することもあり、やりがいや楽しさを実感しています。「あなたはたいせつなひと」、「すごい力をもっている」、「生まれてきてくれてよかった」そんなメッセージをこども達に伝えています。これからも、地域の中で、助産師としてできる仕事を精一杯続けていきたいと思っています。



いのちの授業風景

♥保健師♥
内間さんへの
インタビュー

宮古島市下地保健福祉センター 内間 梨恵

保健師の仕事についての感想をお聞きしたときの内間さんの第一声は、「楽しいです。」でした。

卒業後、保健師として伊良部町役場に就職しました。現在2児の母としての役割を果たしつつ、下地保健福祉センターで母子保健、成人保健を中心とした保健師活動に精力的に取り組んでいます。就職して間もない頃と比べると、自分から仕事上の課題を見つけ、改善に取り組み、評価まで具体的にできるようになり、妊婦から成人まで、対象者の方々の体のメカニズム、ライフサイクルなどをイメージしながら、仕事ができるようになったようです。特に生活習慣病予防のための取り組みでは、40歳未満の方々を対象に積極的に健診受診をすすめ、成果もあげています。住民の方々と直接触れ合え、市の健康課題に直結する生活習慣病予防のための保健指導や情報提供ができ、自らの健康課題に気づいて生活習慣や行動を変えてくれるときが一番うれしい、近い将来、健康寿命の延伸や早世死亡数の改善、透析患者の減少など目に見える形で保健活動の成果が現れることを期待して地道に取り組んでいます、と語っていました。



実習調整会議の様子 (内間さん)

恒例の大学イベント

第14回看護大祭

2年次 吉村 基見

去った9月22日、23日に、「伝えたいココロがココにある」というテーマで、第14回沖縄県立看護大学祭を開催いたしました。今回の看大祭は例年と開催時期が異なったこともあり、多少、準備がうまく進まないこともありましたが、2日間の来場者数は1200名と大盛況でした。お越し頂いた地域の方々、関係者の皆様から、多大なご理解とご協力のもと、無事に成功を収めることができました。この大学祭で、私達は、日頃の講義や実習などで蓄えてきた健康や看護に関する専門的知識と技術を来場者の方々に伝えていく中で、多くの気づきや学びを得て、やりがいを実感させていただきました。心より感謝申し上げます。大学祭で得られた、喜び、感動、学びを今後の大学生活に活かし、次年度の大学祭にもつなげたいと実行員一同、決意を固めました。



オープンキャンパス2012

広報・情報専門部会 講師 牧内 忍



平成24年度のオープンキャンパスは、7月28日(土) 10:00~15:00、本学教育管理棟を会場として開催されました。363人(高校生・既卒生298人、学校関係・父母・一般65人)の皆様にご来場いただき、沖縄県立看護大学を体感していただきました。

オープンキャンパスは、本学の幅広い取り組みについて、広く県民の皆様にご案内いただき、そして、質の高い多くの受験生を得るために、高校生の皆様を対象に積極的な広報活動を行うことを目的としております。

そのために、在学生による学内案内の「キャンパスツアー」、「個別進学相談」、「ミニ講義」の他、様々な体験コーナーと展示による活動紹介を行いました。

今年度は、新しい試みとして、「大学入試説明会」を同日に開催いたしました。予想以上に多くの参加者の皆様においでいただきました。

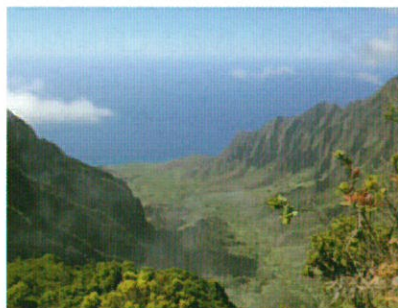
ハワイ研修に行ってきました!!

3年次 樋口 智美

今年のハワイ研修は8/19~9/7の3週間の日程で、学生11名、教員2名での参加となりました。最初の2週間はカウアイ島のカウアイコミュニティカレッジ(KCC)で英会話などの講義を受けた他、ホームステイを行いました。最後の1週間はオアフ島のハワイ大学マノア校で、沖縄から移民した人たちの歴史や米国の医療制度などの講義を受け、ホスピスとシミュレーション施設の見学に行きました。

今回のハワイ研修からプログラムに追加されたシミュレーション施設には、子どもから大人までのリアルな人形がありました。話がわかる、脈・体温・血圧が測定できる、汗や涙を流す人形がありました。実際に使ってみて、このような模型があったら、より現場に近いリアルな体験ができ、実習に行く前にもっと実践的な練習ができると思いました。

私がハワイ研修に参加したのは、英会話が得意になりたかったことと、将来海外で看護師の仕事をしたかったからです。今回の研修を通して、自分の英語力の無さを痛感し、また上達したことも実感できました。ホームステイでは温かく迎えられ「いつでも泊りに来なさいね」と言われて、新しい家族が増えた気がして、とてもうれしかったです。



ハワイ研修に関わったすべての人たち、ハワイ研修に行かせてくれた家族に感謝しています。研修での学びを生かして、これからの実習や学習を深めていきたいです。



専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 「島しょにおける包括的専門看護師の養成」

教授:神里みどり

大学院での島しょにおける包括的専門看護師養成に関する授業がスタート

平成24年度4月から大学院博士前期課程において、新しく包括的専門看護師養成の授業がスタートしました。前学期では、包括的保健看護特論Ⅰで学外から島しょ保健・看護・医療の専門家をお招きして、離島・へき地医療の現状やプライマリーヘルスケアについての理論と実際について学びを深めました。実習も八重山地区を中心に、離島の地域特性を踏まえ波照間島の診療所の看護活動や保健活動などを概観しながら、小離島における健康問題の現状について、プライマリーヘルスケアの視点で考察できるように実習を展開します。

後学期は、特論Ⅱ・Ⅲで離島・へき地における成人期・老年期ならびに小児・母性に関する健康問題とその看護活動、さらに実践ヘルスアセスメントといった高度実践者に必要不可欠な専門的な科目について幅広く学んでいます。ジェネラリストとしてのスペシャリストの能力をどのように培っていくのか、試行錯誤を重ねながらのスタートですが、離島・へき地の住民の皆様や実践家のご意見を聞きながら、地域に根ざした人材育成をめざしています。今後とも多方面からのご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



沖縄科学技術大学院大学(OIST)訪問

教授:安谷屋 均


特別講義の1つとして7月27日(金)に世界最高レベルの研究および研究者の育成する沖縄科学技術大学院大学(OIST)の講義とキャンパスの見学をしました。今回、看護学部1年生・2年生全員および数人の教員が参加しました。初めに副学長のニール・コールドー博士がOISTについて説明してくれました。その後、神経科学専門の中西節子博士による講義に参加し、高度な研究内容を分かり易く講義をして頂きました。講義終了後、各グループごとに分かれ構内の施設や各教員の研究室そして実験室など学内を見学しましたが、充実した施設・研究設備そしてその広さに驚かされました。また、研究者は世界各国から優秀な人を集め、学内はすべて英語で会話をしています。

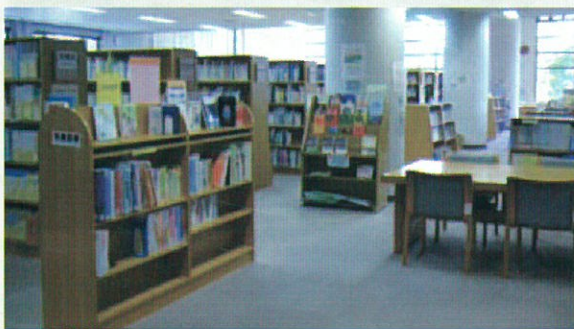
今年9月、第1期の大学院生が約20名入学し入学生は世界各国から来ているそうです。一度、沖縄科学技術大学院大学(OIST)に見学に行かれたらいかがでしょうか。



附属図書館からのご案内

～ 学外者の方もご利用いただけます！～

利用時間	月～金 9:00～21:00 土・日 11:00～19:00 大学の春・夏・冬季休業期間 9:00～17:00
休館日	国民の祝日、 開学記念日5/15 沖縄慰霊の日6/23、 年末年始12/28～1/4  館長が定める臨時休館日 (蔵書点検、暴風警報発令時等)
貸出	本学の学部等学生 5冊・2週間以内 本学の大学院生 10冊・4週間以内 学外利用者 2冊・2週間以内
蔵書	看護学関係図書 12,000冊 医学関係図書 17,000冊 教養関係図書 21,000冊 CD・DVD 1,150枚 ビデオテープ 1,440本 購入雑誌 日本語 250種 外国語 85種



(2012.3.31現在概数)

受験生向け平成25年度のイベント

オープンキャンパス2013、第15回看大祭
高校訪問大学入試説明会

※平成25年4月のホームページをご確認ください。

沖縄県立看護大学

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098)833-8800(代)
FAX (098)833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

お知らせ

離島・へき地の看護職養成

○包括的専門看護師養成


平成23年度は2名が大学院博士前期課程に入学し、離島・へき地の専門看護師をめざし学習中です。平成24年度には3名の入学者が決定しました。

○島しょ看護職研修

段階別の島しょ看護職研修が始まりました。島しょ看護の理解者養成の「入門研修」では、県内の保健医療福祉67施設から309人の看護職の参加がありました。年度内に島しょ看護の実務応援者養成の「第一段階研修」を開催予定です。

平成24年度後半の主な大学行事

(平成24年10月～平成25年3月)

- 10月1日(月) 後期授業開始
- 11月17日(土) 特別選抜入試(看護学科)
推薦選抜・
社会人特別選抜入試(別科助産専攻)
- 12月13日(木) 卒業論文発表会
- 1月19日(土)・20日(日)
大学入試センター試験 
- 2月12日(火) 一般選抜入試(別科助産専攻)
- 2月25日(月) 一般選抜入試(前期・看護学科)
- 3月12日(火) 一般選抜入試(後期・看護学科)
※今後の入試情報は、ホームページをご確認ください
- 3月15日(金) 卒業式



「かせかけ」とは

琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」・「感性」・「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。

琉球古典舞踊
「かせかけ」
に用いる道具

沖縄県立看護大学

検索